



# 創作の背景

砂澤ビッキ  
没後30年特別展

2019年  
7月20日(土) - 9月1日(日)

- ◎開館時間 / 9:30 ~ 18:00 (入場は17:30まで)
- ◎休館日 / 月曜日 (月曜日が祝日の場合は翌日)
- ◎観覧料 / 一般 300円、高校生 200円、小中学生 100円  
(洞爺湖町民は無料、その他割引あり)

主催：洞爺湖芸術館  
協力：洞爺湖芸術館友の会、公立はこだて未来大学デザインキャラバンPJ  
後援：北海道新聞社伊達支局、室蘭民報社、伊達信用金庫、公益財団法人道銀文化財団



洞爺湖芸術館  
TOYAKO MUSEUM OF ART

# 創作の背景

北海道を代表する木彫家・砂澤ビッキ (1931～1989) の没後 30 年を記念して、特別展を開催いたします。

ビッキ没後 30 年を控えた昨年後半、スケッチやドローイング、彫刻作品を制作する上で描いたアイデアスケッチ、ビッキ文様と称されるより工芸的な装飾図案、日記や創作メモ、写真、映像等膨大な資料の本格的調査が始まりました。また、ビッキカナダ滞在中の作品の所在が明らかになる等ビッキに関する大きな動きがありました。

今回の展覧会では、当館が所蔵する作品とともに上記の調査で明らかとなった資料も展示し、ビッキがどのように思考し表現していたのか、ビッキの創作の背景、その足跡を探ります。



撮影：井上 浩二

## 砂澤ビッキ

北海道旭川市出身。初期には阿寒湖畔と鎌倉、その後札幌を制作の拠点としたが、1978年からは音威子府村箴島(おさしま)の小学校跡にアトリエを構え、亡くなるまでの十余年、精力的に木彫作品の制作を行った。

### 【略年譜】

- 1931年 旭川市に生まれる。本名は恒雄(ひさお)、ビッキは幼少時からの愛称。
- 1952年 上京、独学で絵画・彫刻を学ぶ。
- 1955年 モダンアート協会展(東京)入選。
- 1959年 北海道に戻り、以降東京を中心に個展を開催。
- 1983年 カナダに留学。
- 1989年 神奈川県立県民ホール「現代作家シリーズ'89 上野憲男・砂澤ビッキ・吹田文明展」  
1月22日のオープニングに病をおして出席。  
1月25日 札幌にて没(享年57歳)



1



2



3



5



4

1. 《TOH》1983年 洞爺湖芸術館蔵
2. 《樹の処女》1983年 個人蔵
3. スケッチ 1980年頃 個人蔵 笠井義郎撮影
4. 黒板スケッチ 洞爺湖芸術館蔵
5. 巻物(タイトル不詳) 1986年頃 個人蔵

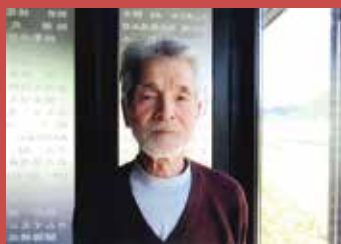
関連事業【要予約】参加無料(ただし入館料が必要です) / 定員各40名

7/20  
(土)

**講演会** 14:00～  
「私が見た砂澤ビッキ」  
講演：河上 實 氏

エコミュージアムおさしまセンター名誉館長。1978年に音威子府村に移住した砂澤ビッキに素材用の原木を提供する等、ビッキの創作活動を陰で支えた人物の一人。

講演では、音威子府でのビッキについてお話しさせていただきます。



8/31  
(土)

**演奏会** 15:00～  
「おんがくとたいせつなもの」  
演奏：イル テアトリーノ  
ソプラノ：次藤 正代 氏 / チェンバロ：森 洋子 氏

娯楽として親しまれてきたオペラを身近な場所で上演することを目指し2011年から活動。バロックの演奏形式に基づき、オペラの楽しみを届けている。

音楽と大切なものを組み合わせた「おんがくとたいせつなもの」を2016年より開催。

洞爺湖芸術館の大切な砂澤ビッキの作品とともにイル テアトリーノの音楽をお楽しみください。



## アクセス

◎バスで 札幌駅前バスターミナルより 洞爺湖温泉行き「洞爺水の駅」下車 徒歩3分

◎車で  
札幌から230号線(約2時間)  
室蘭から37号線(約1時間20分)  
函館から5号・37号・230号(約3時間)



**洞爺湖芸術館**  
TOYAKO MUSEUM OF ART

〒049-5802 虻田郡洞爺湖町洞爺町96番地3  
TEL/FAX: 0142-87-2525 http://www.geijutukan.net/

